

## レジオネラ属菌の検査結果（令和4年度）

---

レジオネラ属菌によって引き起こされるレジオネラ症は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」で四類感染症に分類されています。

レジオネラ症には肺炎型とポンティアック熱型があります。肺炎型は死亡例も報告されています。一方、ポンティアック熱はインフルエンザに似た熱性疾患で自然治癒するため発見されづらく、報告例が少ない傾向にあります。

レジオネラ属菌は湖沼の水や土の中に生息する常在菌で、土埃などで運ばれて噴水などの水景設備や冷却塔、浴場施設などの人工的な水環境下でアメーバを介して増殖します。このレジオネラ属菌によって汚染された水のエアロゾルを人が吸い込んだり、汚染水が誤って気道に入ったりすると感染する可能性があります。感染者から他の人への感染は報告例がありません。

レジオネラ症の発生・拡大を防止するには、原因施設を特定し、レジオネラ属菌を殺菌消毒することが重要です。患者の行動調査で利用施設を聞き取り、施設の水や水回りのふき取り検体を採取して、レジオネラ属菌検査を行って感染源を特定します。

令和4年度は、延べ31施設、146検体（水試料76、ふきとり試料70）のレジオネラ属菌検査を行いました。検査はLAMP法を用いた遺伝子検査と培養法の2種類を行いました。

検査を実施した対象施設数は、患者宅14、高齢者福祉施設10、公衆浴場1、医療機関4、スイミングスクール1、事業所1でした。

検査結果はLAMP法で遺伝子が検出されたのは6施設、10検体（水試料8、ふきとり試料2）で、培養法で菌が検出されたのは3施設、4検体（水試料3、ふきとり試料1）でした。培養法で菌が検出された4検体のうち3検体がLAMP法陽性、1検体がLAMP法陰性でした。LAMP法または培養法で菌が検出された検体の施設と検体の内訳、菌同定結果は表に示したとおりです。

このうち、環境から分離された菌株と患者から分離された菌株のパルスフィールドゲル電気泳動法による分子疫学的解析を実施した事例が1事例ありました（表中No.3）。No.3では患者喀痰由来の *Legionella pneumophila* SG1と公衆浴場の水検体由来株からの *L. pneumophila* SG1は一致しませんでした。

レジオネラ属菌が検出された施設は、保健所の指導により、消毒等の衛生対策を実施しています。

表 レジオネラ属菌が検出された事例の検出結果

No.	施設種類	LAMP法陽性検体	培養法陽性検体と菌名
1	患者宅	居室 水槽	
2	高齢者福祉施設		2階個室浴槽 シャワー水(10cfu/100mL) ( <i>L. pneumophila</i> SG 1)
3	公衆浴場	ジェットバス浴槽水	ジェットバス浴槽水(1600cfu/100mL) ( <i>L. pneumophila</i> SG 1、血清群不明) ※
		内湯低温浴槽水	
		かけ湯	かけ湯(20cfu/100mL) ( <i>L. pneumophila</i> SG 1、SG 5、血清群不明) ※
4	患者宅	屋外雨水タンク水 屋外雨水タンクシャワーふきとり	
5	患者宅	浴槽 給湯口ふきとり 浴槽水	浴槽 給湯口 ふきとり( <i>L. pneumophila</i> SG 1)
6	患者宅	浴槽水(追い炊き後)	
7	高齢者福祉施設	機械浴槽浴槽水	

※パルスフィールドゲル電気泳動法を実施

培養法単位: cfu/100mLは100mL当たりの菌数(cfu: colony forming unit)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】